

北海道教育大学函館校の留学生による函館レポート： 赤レンガのクリスマスファンタジー

ザン－ヒョンヒ、キム－ソヨン（韓国）



誰にでもクリスマスの美しい思い出は心に残っています。恋人、家族、友達との思い出を永遠に忘れないようにしてくれる場所があります。冬の函館は、初めての恋人と行く初めてのクリスマスのようにときめく所です。

北海道の南端、北海道で3番目に大きい都市「函館」はもう私たちにとって住み慣れた町です。函館を表す表現は様々あります。世界3大夜景の一つと言われている函館、日本の中の小さなヨーロッパみたいな可愛らしい街、そして日本最初の開港都市として歴史がある函館と言われています。



函館赤レンガの正式名称は金森赤レンガ倉庫で、日本の開港の象徴です。明治時代にオープンした物流倉庫として創設者「金森」の名を取って、今も金森と呼ばれています。後の赤レンガはそのまま赤いレンガという意味であります。現在函館の最大の観光地として、様々なガラス工芸品、オルゴールなどの記念品の店はもちろん、高級なレストランや小さくて可愛らしいカフェが並んでいます。アンティークな雰囲気酔いながら赤レンガを歩いていると、自分も知らないうちに気持ちが静まり返って、忘れた初恋の人との思い出がよみがえります。

函館の赤レンガでは12月1日から25日まで「クリスマスファンタジー」というイベントが開かれます。赤レンガは美しい海やビンテージな雰囲気の夜景が有名なところですが、クリスマスファンタジーの夜景は1年の中で一番だと言われています。建物に交わるガス灯と遊覧船の灯り、クリスマスファンタジーの象徴であるクリスマスツリーがある赤レンガでは、誰でも子供のころ想像した暖かいクリスマスの光景が見えます。



1998年に始まったクリスマスファンタジーは、カナダの姉妹都市からもらったクリスマスツリーを飾ったのが始まりです。この伝統が続いて、今も相変わらずクリスマスファンタジーのためにカナダからツリーが運送されてきて、飾り付けられます。



20mの大きいツリーに飾られている5万個以上の電球は、ロマンチックな函館をもっとロマンチックにしています。クリスマスごろの赤レンガはこの上なくロマンチックですが、恋人たちの天国ではありません。街灯りの下で誰かは愛する恋人を思い出して、誰かは別れた恋人のことを考えます。小さな都市のなかの小さな港、きれいで静かな夜景を見ると人の悩みや孤独さえ溶けていくようです。

キリストの誕生を祝うクリスマスは、お互いにお祝いをする意味がある記念日です。彼氏や彼女と過ごす函館のクリスマスは二人の永遠を約束するロマンチックな場所であり、家族と過ごすクリスマスは子供にとってきっと美しいプレゼントになるはずです。友達と函館に行ったら、楽しい思い出として写真の中に残るはずです。

一人で行っても寂しくありません。むしろ大切な何かを、誰かを思うことができる場所になるはずです。

函館の赤レンガ、そしてクリスマス。忙しい日常から脱出するためにこれ以上に幻想的な場所はないでしょう。

一生忘れない美しい追憶のため、子供時代に憧れたクリスマスの思い出がある、楽しい思い出話を作ってくれる函館と一緒に行きませんか？